



室蘭工業大学
学術資源アーカイブ



Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive

せいかを せかいに せかいで いかせ！

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-06-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 千葉, 浩之 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/00008935



平成28年6月9日(木) 16:15-17:45

英語論文1DAYセミナー — 英語論文を収集・執筆・発信する —

第3部「英語論文を正しく広く発信しましょう」

室蘭工業大学 図書・学術情報事務室 学術情報ユニット 千葉浩之

せいかを せかいに せかいで いかせ！

はじめに

学術資源アーカイブに登録するメリット

学術情報ユニットの取り組み

- ・ 情報収集・調査・依頼・登録
- ・ 研究者データベースからのリンク形成

おわりに

はじめに

The transition towards an Open Science system

adopted on 27/05/2016

Council of the European Union

Competitiveness Council (COMPET)

<http://data.consilium.europa.eu/doc/document/ST-9526-2016-INIT/en/pdf>

はじめに

MAIN OUTCOMES

- All scientific articles in Europe must be freely accessible as of 2020
- EU member states want to achieve optimal reuse of research data
- They are also looking into a European visa for foreign start-up founders
- According to the new Innovation Principle, new European legislation must take account of its impact on innovation

Press release: All European scientific articles to be freely accessible by 2020
<http://english.eu2016.nl/documents/press-releases/2016/05/27/all-european-scientific-articles-to-be-freely-accessible-by-2020>

はじめに

学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)

平成28年2月26日

科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/036/houkoku/1368803.htm

はじめに

基本的考え方

- ・ 研究成果は利活用されるべき
- ・ 公的研究資金*による研究成果のうち論文および研究データは原則公開すべき

*文部科学省又は文部科学省が所管する独立行政法人から配分される競争的研究費

はじめに

研究成果の公開についての基本的方策

(1) 論文のオープンアクセスについての取組

- ▶ ・機関リポジトリをグリーンOA*の基盤として更に拡充する
- ・オープンアクセスに係る方針を定め公表する

(2) 論文のエビデンスとしての研究データの公開

(3) 研究成果の散逸等の防止

(4) 研究成果の利活用

(5) 人材の育成及び確保

*査読付き論文について出版社版または出版社版に至る前の著者最終原稿を大学等が構築・運用する機関リポジトリに登載し、公開する方法。グリーンOAの利点は、著者の負担なしに有料雑誌の論文情報が公開されることである。

はじめに

室蘭工業大学の機関リポジトリ



室蘭工業大学
学術資源アーカイブ



Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive

<https://muroran-it.repo.nii.ac.jp>

※平成28年3月1日 JAIRO Cloudに移行

学術資源アーカイブに登録するメリット

1. 学術情報検索サイト経由のアクセス

規格に準拠したプロトコルとフォーマットにより
学術情報検索サイトへメタデータを提供

- WorldCat <https://www.worldcat.org>
- JAIRO <http://ju.nii.ac.jp>
- CiNii Articles* <http://ci.nii.ac.jp>
- 国立国会図書館サーチ <http://iss.ndl.go.jp>
-

*学術雑誌論文、一般雑誌記事、紀要論文のみ

学術資源アーカイブに登録するメリット

1. 学術情報検索サイト経由のアクセス

通常のウェブサイトで成果物を公開

→学術情報の探索行動から外れる・見逃す恐れ*

今年度登録した/しているウェブ公開済成果物

- ・ 航空宇宙機システム研究センター活動報告書
- ・ 地域共同研究開発センター研究報告

*論文の学術資源アーカイブへの登録に加えて、出版物レベルでも日本で刊行された電子リソースのデータ共有サービス ERDB-JP (Electronic Resources Database-JAPAN) <https://erdb-jp.nii.ac.jp> への登録を進め、視認性を高めます

学術資源アーカイブに登録するメリット

2. 永続的識別子によるアクセスの保障

http://hdl.handle.net/10258/***

万が一、学術資源アーカイブそのもののURLが変わっても変更先へアクセス

室蘭工業大学の研究成果を検索・閲覧・ダウンロードできます

トップ ランキング

検索

詳細検索 全文検索 キーワード検索

インデックスツリー

- 学術雑誌論文
- 会議発表論文
- 研究報告書
- 一般雑誌記事
- 室蘭工業大学紀要
- 本学出版物(紀要以外)
- 学位論文
- 研究者名(五十音順)

インデックス

学術雑誌論文

- 研究者名(五十音順) ▶ [神田 康晴 \(KANDA Yasuharu\)](#)
- 研究者名(五十音順) ▶ [上道 芳夫 \(UEMICHI Yoshio\)](#)
- 研究者名(五十音順) ▶ [澤田 紋佳 \(SAWADA Ayaka\)](#)

Permalink <http://hdl.handle.net/10258/00008882>

Formation of active sites and hydrodesulfurization activity of rhodium phosphide catalyst: Effect of reduction temperature and phosphorus loading

学術資源アーカイブに登録するメリット

3. 他の登録論文の発見

専任教員ひとりひとりにインデックスを作成
表記ゆれのない「著者」記述(クリックで検索)

The screenshot shows a web interface for a digital archive. On the left is a sidebar titled 'インデックスツリー' (Index Tree) with a list of categories and authors. The main area is titled 'インデックス' (Index) and shows a list of '会議発表論文' (Conference Papers) with author names and links. A specific paper is highlighted: '2波長ファイバ照射によるスペckル血流・血液濃度変化の同時計測'. Below this, there is a table with columns 'File / Name' and 'License'. The file '51st_12th_74.pdf' is listed. At the bottom, there is a table with fields 'アイテムタイプ', '言語', and '著者'. A green arrow points to the '著者' (Author) field, which lists '篠原 智美' and '横井 直倫'.

インデックスツリー

- 学術雑誌論文
- 会議発表論文
- 研究報告書
- 一般雑誌記事
- 室蘭工業大学紀要
- 本学出版物(紀要以外)
- 学位論文
- 研究者名(五十音順)

相津 佳永 (AIZU Yoshihisa)

青柳 学 (AOYAGI Manabu)

雨海 有佑 (AMAKAI Yusuke)

有村 幹治 (ARIMURA Mikihi)

飯島 徹 (IIJIMA Toru)

板倉 賢一 (ITAKURA Ken-ic)

市村 恒士 (ICHIMURA Koji)

今井 良二 (IMAI Ryoji)

岩佐 達郎 (IWASA Tatsuo)

上羽 正純 (UEBA Masazumi)

上道 芳夫 (UEMICHI Yoshio)

上井 幸司 (UWAI Koji)

戎 修二 (EBISU Shuji)

上野 謙一 (KAMINO Ken-ichi)

インデックス

会議発表論文

研究者名(五十音順) ▶ 湯浅 友典 (YUASA Tomonori)

研究者名(五十音順) ▶ 相津 佳永 (AIZU Yoshihisa)

研究者名(五十音順) ▶ 船水 英希 (FUNAMIZU Hideki)

Permalink : <http://hdl.handle.net/10258/00008911>

2波長ファイバ照射によるスペckル血流・血液濃度変化の同時計測

[利用統計を見る](#)

File / Name	License
51st_12th_74.pdf	
51st_12th_74.pdf (445.29KB) [6 downloads]	

OAI-PMH BIBTeX OWL SWRC WEKO EXPORT PRINT

アイテムタイプ	会議発表論文 / Conference Paper
言語	日本語
著者	篠原 智美 横井 直倫

学術資源アーカイブに登録するメリット

4. 利用統計の把握

ブラウザ上で

- ・ 論文ファイルのダウンロード回数(リアルタイム)
- ・ 閲覧(論文情報ページへのアクセス)回数(前月分まで)

利用統計レポートのメール配信

毎月1日に前月分のダウンロード回数と
閲覧回数をお届け(希望者のみ)

※論文ファイルのURLに直接アクセスされると
閲覧回数はカウントせず、ダウンロード回数のみカウントします

学術資源アーカイブに登録するメリット

5. 研究者データベースへのリンク

表示項目として

「室蘭工業大学研究者データベースへのリンク」
を設置

論文から論文以外の研究業績や教育活動、
ひととなりといった側面へのアプローチ

日本語版 → 日本語版の研究者データベース
英語版 → 英語版の研究者データベース

学術情報ユニットの取り組み

・情報収集・調査・依頼・登録

情報収集

英語論文(海外出版社/学協会)

Web of Science(WoS)の検索アラート機能で
所属機関：Muroran Institute of Technology の
論文の新規収録有無を毎週メールで確認・蓄積

日本語論文(国内出版社/学協会)

J-GLOBAL収録の「文献」情報を
室蘭工業大学(別名も含む)で
週1回検索し、前週との差分を確認・蓄積

調査

出版社の著作権ポリシーを調査(照会)

- ・ 公開できる原稿のバージョン
 - ・ 出版社版OK
 - ・ 著者最終稿(≠Proof原稿)OK
- ・ 公開制限期間
 - ・ 即時OK
 - ・ Xか月後OK
- ・ その他の条件(DOIの明記等)

学術情報ユニットの取り組み

・情報収集・調査・依頼・登録

依頼

出版社の著作権ポリシー上

問題のないものについて教員へ依頼

1. 共著者の同意
2. 原稿のご提供

登録

誤記のないよう、相互チェックのうえ登録

室蘭工業大学 第3期(平成28-33年度)中期目標・中期計画

2. 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

- ③ 学術研究成果の論文発表、研究成果に基づく外部資金の獲得及び特許等の取得を積極的に進め、それらの研究水準及び成果を評価・検証して、質の高い研究を推進し、それらを公表する。

↓ そのための措置のひとつ

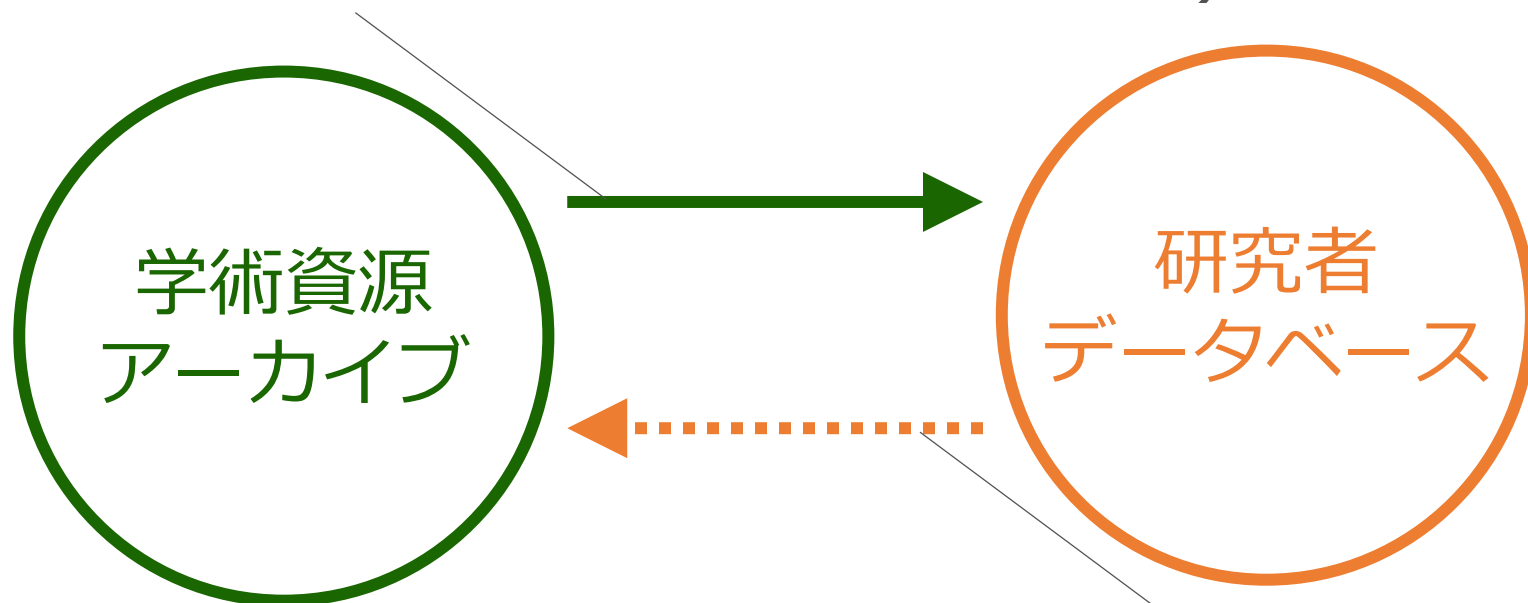
- ③-3 教員データベースとリポジトリとの接続性を高めて、研究成果コンテンツの公開を進める。

学術情報ユニットの取り組み

- ・ 研究者データベースからのリンク形成

登録時にリンク形成

(過去分はJAIRO Cloud移行時に形成済)



ほとんどリンクできていないが
研究者データベース更新(今年度)に向けて形成作業中
更新後は論文登録時にこちらのリンクも形成します

学術情報のオープン化をご考慮のうえ
引き続き、学術資源アーカイブ事業に
ご理解・ご協力をお願いいたします

具体的には

- WoS、J-GLOBALでは収集できない情報を！
教材や会議発表資料も登録したいです
- 国際的な学術情報のオープン化を踏まえて
論文執筆・投稿の段階から共著者と
機関リポジトリ登録について認識の共有を！
- http://hdl.handle.net/10258/*** のURLを
関係者に通知・リンクとしてご活用ください！
※Google検索等から論文ファイルに
直接アクセスされると
他の登録論文や各種リンクを見逃すことに

こちらに近いうちに

学術情報のオープン化の推進について(審議まとめ)

研究成果の公開についての基本的方策

(1) 論文のオープンアクセスについての取組

- ・ 機関リポジトリをグリーンOAの基盤として更に拡充する

- ▷ ・ オープンアクセスに係る方針を定め公表する

(2) 論文のエビデンスとしての研究データの公開

(3) 研究成果の散逸等の防止

(4) 研究成果の利活用

(5) 人材の育成及び確保

研究成果を世界に公開

利活用による新たな価値の創出

